



産業遺産と環境のまち

足尾のまちを歩けば、
「銅山のまち」として栄えた頃の面影がいたるところで見られます。
まち全体が、日本の近代産業発祥の頃を物語る博物館なのです。

そして、いま、煙害により失われた自然環境に
大きな光があてられています。
「産業遺産のまち」そして「環境のまち」足尾。
その四季折々の魅力を訪ねてみませんか。



足 尾は、江戸時代から昭和にかけて、約四百年にわたり「銅山のまち」として栄えてきました。
慶長十五（一六一〇）年に銅山が発見されて以来、幕府の管轄下におかれ、多くの労働者が採掘と製錬を行いました。江戸の中期には足尾千軒と呼ばれるほどの繁栄でした。
その後しばらく衰退しますが、明治十（一八七五）年に古河市兵衛が経営に着手すると、先進的な技術と設備の導入により生産を急速に伸ばしました。明治二十（一八八七）年代には日本産銅の四十%を産出する日本一の銅山となり、近代化を進める日本産業を支える礎の一つとなりました。
しかし、昭和になると、産銅量の減少と時代の流れの中で衰退の一途を辿り、昭和四十八（一九七三）年二月二十八日、遂にその長い歴史に終止符をうちました。
我が国の近代産業の先駆けとなった足尾には、数多くの貴重な産業遺産が残っています。また、最近では、銅山の発達に伴う煙害により破壊された自然環境に光があてられ、緑の再生に向けた積極的な取り組みが行われています。



まち全体が博物館のまち 足尾

産業遺産と環境のまち・足尾を訪ねて

江戸時代から昭和にかけて、約四百年間にわたり『銅山のまち』として栄えた足尾にはその記憶をとどめるたくさんの産業遺産が点在しています。それらの遺産が語るメッセージを未来に伝えるために

「まち全体を博物館」とする構想のもと、様々な取り組みを進めています。さらに、銅を取り出すための製錬や森林の伐採、大火などによって失われた山の緑を回復させようと、国や県、NPOが植樹作業にも取り組んでいます。そんな産業遺産と環境学習のまち・足尾を歩いてみませんか？



① 旧松木村跡

松木地域には中世以来3つの山村がありました。明治17年建設の直利橋製錬分工場から排出された亜硫酸ガスの影響や山林の乱伐、大火により住居は減少していき、明治35(1902)年には廃村となりました。



③ 龍蔵寺・旧松木村無縁塔

日光山輪王寺を本寺とする天台宗のお寺です。坑夫の墓や、廃村となった旧松木村の先祖の無縁塔があります。



④ 製錬所大煙突

大正8(1919)年に建てられた、高さ約50m、直径が下部約6m、上部約4mもある大煙突で、製錬所のシンボルです。



② 愛宕下カラミ煉瓦防火壁

この地区は愛宕下といわれ、明治40年代から製錬所で働く人のため住宅がつくれ、赤長屋とも呼ばれていました。当時は火事が多かったため、建物の横に防火壁がつくれ延焼を防いでいました。壁の材料は銅製錬のときに出る鉄分を多く含む副産物(カラミ)を型に流し固めたものです。

東部エリア



nature

日本特有の貴重な草食動物 カモシカ

体高約70cm・体重30~40kg、雄・雌とも黒色の短角があります。日本特有の貴重な草食動物で、昭和30(1955)年に特別天然記念物に、同39(1964)年には栃木県の県獣に指定されました。



世界でも珍しい食虫植物 コウシンソウ

足尾のシンボルともいえる希少な植物。庚申山の岩場のごく一部に自生し、6月中旬頃にうすい紫色の可憐な花を咲かせます。群生地が特別天然記念物に指定されています。



圧倒的な景観 松木溪谷

切り立った岩壁、天を突くような岩稜、そびえたつ景観は、見る者を圧倒します。足尾銅山の煙害や山火事などによって緑が失われた山肌には、砂防工事やボランティアによる植樹が行われ、少しずつ緑が戻っています。



足尾銅山発見の地 備前橋山



標高1,273m。もとは黒岩山といわれていましたが、備前国の農民2人が1610年に銅鉱を発見したことから備前橋山と名付けられました。登山口の舟石峠から遊歩道が整備され、山頂からは270度の眺望が広がり日光山系男体山や袈裟丸山などの山容が見えます。

●トレッキングコース

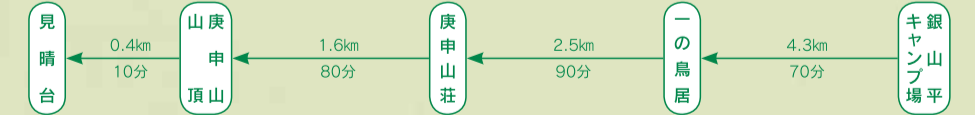


古くから信仰の山とし崇められた霊峰 庚申山



標高1,892m。古くから信仰の山として知られていて、江戸時代に建てられた道標や石碑が数多く残っています。「関東ふれあいの道」として登山道は整備され、筑波山や夜には遠く犬伏の灯が見えます。特別天然記念物のコウシンソウの自生地としても知られています。

●トレッキングコース



日本百名山の一つでもある足尾連山の主峰 皇海山



標高2,144m。群馬県との境に位置し、足尾連山の主峰。日本百名山の一つに数えられ、登山ルートも多方面からのルートがあります。手前の登山道からは上越の峰が一望できます。

●登山コース



⑪ 古河掛水倶楽部 (国登録有形文化財)

古河鉱業が足尾銅山の隆盛期の明治32(1899)年に建てた洋館です。迎賓館として、華族や政府高官を招いた際の接待や宿舎などに使用されました。館内には大正13(1924)年製のピアノや、国産第1号のビリヤード台もあります。平成18(2006)年に国の有形文化財として登録されました。

見学期間 ● 土・日・祝日
4月中旬~11月中旬
開館時間 ● 10:00~15:00
☎0288-93-3255(平日)
0288-93-2015(土・日・祝日)



⑫ 有越索道塔

町中央の通洞選鉱場裏山にそびえる高さ18mと25mの塔は、通洞選鉱場から出される廃泥を有越や水山堆積場まで運搬するためにつくられた索道の支柱です。



⑩ 掛水赤煉瓦倉庫 (国登録有形文化財)

足尾には、書庫や物品収納として使った赤レンガ造りの建造物が点在しています。掛水倶楽部前にあるこの建物は、重要書類等を収納していた鉱業所事務所の二階建て倉庫です。



⑨ 掛水社宅

足尾駅周辺にあるこの社宅は、中央に足尾鉱業所所長の住宅があり、通称「掛水役宅」と呼ばれました。各部所の幹部職員の住む社宅で、今でも当時の佇まいを残しています。

足尾銅山 ゆかりの人物



古河市兵衛

(1832—1903)

天保3(1832)年に京都の造り酒屋の二男として生まれた市兵衛は、若い頃から商才を認められ生糸貿易に手腕を發揮しました。その後、鉱山経営に乗り出し、草倉銅山(新潟県)、赤柴銅山(長野県)、幸生銅山(山形県)の経営に専念しました。

明治10(1877)年、当時経営不振が続いていた足尾銅山を買収し、陸奥宗光の協力や渋沢栄一の資金援助を受けて開発に当たりました。新技術の導入や近代化を図り、同20(1887)年には日本の全鉱産産量の40%を占めるまでになり、市兵衛は日本の鉱山王といわれるようになりました。



田中正造翁

(1841—1913)

栃木県佐野市小中町(旧旗川村)の名主の家に生まれ、区会議員から県会議員、そして衆議院議員となりました。

衆議院議員となつてからは、足尾銅山の鉱毒問題を繰り返し国会でとりあげました。しかし、国の政策に改善が見られないことから、明治34(1901)年、天皇に直訴しました。

その後、政府は渡良瀬川下流に鉱毒を受け止める貯水池を設置するため谷中村を強制廃村とし、ここを遊水地(現・渡良瀬遊水地)としました。政府のやり方を不服とした正造は谷中村に移り住み、農民とともに村の貯水池化に反対し続けました。政府による住居強制破壊の後、死ぬまで谷中村から離れることはありませんでした。



国民宿舎かじか荘

足尾町銀山平 5488
TEL.0288-93-3420



亀村別館

足尾町銀山平 5488-4
TEL.0288-93-2218

肌がスベスベになること、湯もよばれていいます。泉質はアルカリ単純泉で、疲労回復、健康増進、神経痛五十肩などに効能があります。
大自然と心温まるおもてなしをゆつくり堪能してください。

足尾天然温泉 庚申の湯



7 古河橋

(国重要文化財)

明治23(1890)年に完成した古河橋は、ドイツ人の設計による長さ50m、幅4.6mのトラス式鉄橋で、日本に現存する道路用鉄橋の中でも古いものに数えられるひとつです。



6 本山鉱山神社

(国指定史跡・市有形文化財)

明治22(1889)年に銅山の繁栄を願って、坑長以下、本山に働く坑夫一同からの寄進3,279円53銭によって造営されました。この神社を中心に銅山の繁栄を願って山神祭が行われるなど、人々の生活と一体となっていました。



5 本山製錬所跡

(国指定史跡)

銅山の歴史と共に歩んだこの製錬所は、常に日本にある製錬所の先端を行く製錬法をつくり出し、国内はもとより世界中からも注目を集めていました。昭和48(1973)年2月閉山。その後輸入鉱石を製錬していましたが、平成元(1989)年に完全に操業を停止しました。(写真右：昭和48年頃の様子)



8 間藤水力発電所跡

(市指定史跡)

明治23(1890)年に造られた水力発電所。発電された電力は坑内電車・揚水機・電灯として利用されました。煉瓦造りの基礎と直径1mの鉄管の一部が残っています。



本山坑エリア

日本初 in 足尾

- 明治16年●本山に日本初の洋式選鉱場を完成。
- 明治18年●本山坑口～本山選鉱場間に日本初のドコヴィール(インクライン)採用。
- 明治19年●民間初となる銅山私設電話が設けられた(23km)。●水套式焙鉱炉を日本で初めて設置。
- 明治23年●細尾峠に日本初の架空索道(鉄索)が運転を開始し、馬車鉄道と連結。日光駅まで貨物輸送の大改革。●間藤に水力発電所を開設し、日本で最初に電力を動力に応用。水源は深沢と松木川。●有木坑堅坑に日本初の電気捲揚機を設置。
- 明治24年●本山～古河橋に日本初の電気機関車を運転。
- 明治26年●日本で初めての電気機関車が、通洞と松原の渋川橋間に運転される。
- 明治30年●有木・小滝坑内に日本初のトローリー式電気機関車を設置。坑内鉱石運搬用に運行開始。
- 明治31年●京子内に民間で日本初の亜硫酸の測候所を開設。(大正3年に渡良瀬に移転)
- 明治43年●通洞坑光盛第1堅坑8番坑に坑夫の昇降用巻き上げ機を設置。日本初の坑内大立坑での人員昇降が開始される。
- 大正元年●日本初の産業安全運動として「安全専一」を導入する安全第一の始まり。
- 大正3年●日本初の国産第1号となる小型鑿岩機「足尾式三番型」を工作課で考案。
- 大正10年●県内初のメーデーを足尾で開催。鉱山としても初。
- 昭和29年●町立幼稚園2園(足尾・本山)が開園。栃木県初の公立幼稚園。

小滝坑エリア



通洞坑エリア



18 小滝の小滝

象山の下のカーブ(象山の大曲り)から見える小さな滝で、地名の由来にもなりました。すぐ下の山岳橋からの眺めも最高です。



17 小滝坑口

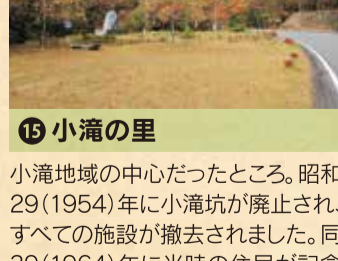
(市指定史跡)

昭和29(1954)年まで使われていた坑口。明治18(1885)年の旧坑道取り明けから約70年間銅を産出し続けました。



16 小滝浴場跡

坑内作業を終えた鉱夫たちが汗と汚れを落とした浴場跡からは、鉱夫たちの声が聞こえてくるようです。



15 小滝の里

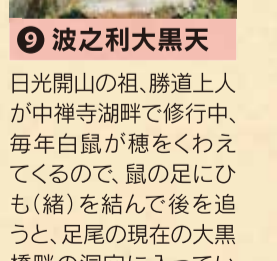
小滝地域の中心だったところ。昭和29(1954)年に小滝坑が廃止され、すべての施設が撤去されました。同39(1964)年に当時の住民が記念碑を建立。現在は同61(1986)年に建て替えられた二代目の碑と、平成7(1995)年に建立された歌碑があります。



13 足尾キリスト教会

(国登録有形文化財)

イギリスの鉱山王グリーン・ヒビアンは世界各国の首位鉱山所在地に教会を建てており、日本では足尾銅山が選ばれました。明治41(1908)年に献金された建設資金2,500円で建てられました。



9 波之利大黒天

日光開山の祖、勝道上人が中禅寺湖畔で修行中、毎年白鼠が穂をくわえてくるので、鼠の足にひも(緒)を結んで後を追うと、足尾の現在の黒橋畔の洞穴に入ってきました。その場所に波之利大黒を刻み、この地を足尾と名付けたといわれています。

Learn 学ぶ



環境の大切さを学ぶ

銅親水公園・足尾環境学習センター

足尾町北部の足尾環境の下に造られた公園。県内初の人道斜張橋「銅橋」や、銅山の歴史や自然環境問題を学べる「足尾環境学習センター」があり、緑を失った足尾の山々や旧松木村などの歴史を、写真や資料などで展示しています。

見学期間●4月1日～11月30日 開館時間●9:30～16:30 ☎0288-93-2525

NPO法人 足尾に緑を育てる会

荒廃地化した足尾の山に緑を取り戻そうと、春の植樹デーや足尾グリーンフォーラム、体験植樹を実施しています。毎年4月の第4日曜日の植樹デーには全国から多くの参加者が訪れ、「足尾の山に100万本の木を植えよう」の合い言葉のもと緑化活動を行っています。

☎0288-93-2180



足尾銅山の歴史を学ぶ

古河足尾歴史館

館内で展示されている明治、大正、昭和の写真は、全国の鉱山では足尾でしか見られない大変貴重なものです。

見学期間●4月1日～11月30日

休館日●月曜・火曜

(祝日の場合は翌日以降)

開館時間●10:00～15:00 ☎0288-25-5810



足尾文化交流館

足尾銅山の世界遺産登録をめざし、足尾銅山の写真や資料を展示しています。

見学期間●4月～11月下旬の木・土・日・祝日

開館時間●9:00～15:30

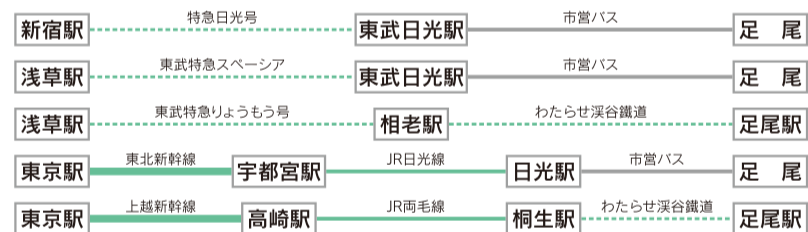


日光市足尾町への交通アクセス

●お車をご利用の場合

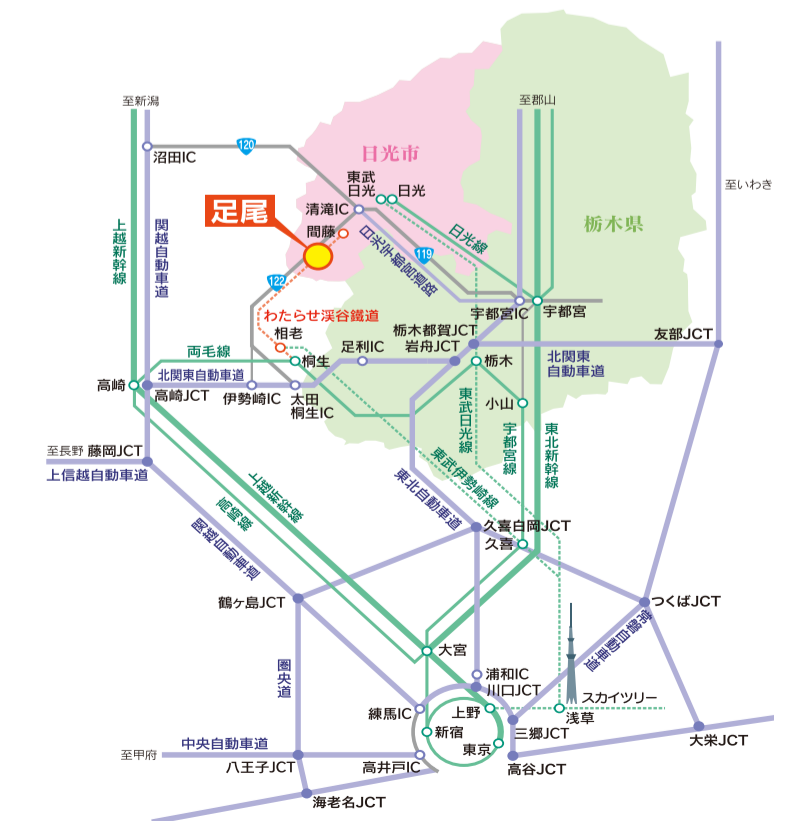


●電車をご利用の場合



●市営バス

《JR日光駅▶足尾地域》						《足尾地域▶JR日光駅》									
J	R	7:22	9:35	13:00	15:50	17:30	19:01	銅山	山	6:25	7:30	11:05	13:15	15:35	18:00
東	武	7:23	9:36	13:01	15:51	17:31	19:02	東	武	7:17	8:22	11:57	14:07	16:27	18:52
銅	山	8:15	10:28	13:53	16:43	18:23	19:54	J	R	7:18	8:23	11:58	14:08	16:28	18:53
日光	観光							日光	観光						



時期	イベント
3月	梅の見ごろ(赤法華梅林公園)
4月	桜の見ごろ(花の渡良瀬公園)
4月	春の植樹デー
5月	足尾陶器まつり
5月	GW
6月	コウソノソウ見ごろ(庚申山)
6月	第3土曜 日曜日
6月	庚申山春まつり
3日	足尾まつり
3日	ヤシオツジ・ヤマツツジ 見ごろ(庚申山・備前橋)
8月	足尾石刀節全国大会
8月	上旬
13日	足尾町納涼祭
中旬	釣り大会
10月	第3土曜 日曜日
10月	庚申山秋まつり
中旬	紅葉の見ごろ(庚申山・皇海山)
12月	わたらせ渓谷鐵道 各駅イルミネーション
初旬	

歳時記

※イベント等は天候や主催者側の都合等により変更となる場合があります。



わたらせ渓谷鐵道各駅イルミネーション



足尾町納涼祭



足尾まつり



春の植樹デー

enjoy 楽しむ



陶芸を体験しよう!

足尾焼陶芸教室

足尾銅山の閉山を機に「地域興し」の一つとして誕生した「足尾焼」。足尾に点在する各窯元では、陶芸教室を行っています。

間藤観光センター ☎0288-93-2515
芳州窯 ☎0288-93-3888



正三窯 ☎0288-93-2888

※費用・時間等は各窯元へお問い合わせください。

銅山を体験しよう!

足尾銅山観光

トロッコに乗り、足尾銅山の歴史と仕組みを体験できます。足尾銅山三大主坑口の中心となった通洞坑の一部を利用した全長700mの坑内では、江戸時代の手掘りから現代の機械化されている採掘の様子について、人形を使って年代ごとに紹介しています。

開館時間●9:00～16:30

休館日●無休 ☎0288-93-3240

自然を満喫しよう!

銀山平キャンプ場

庚申川沿いに位置する、豊かな自然に囲まれたキャンプ場。バーベキュー施設も完備され、バンガローでの宿泊のほか、持ち込みテントで宿泊もできます。入浴には隣接する国民宿舎かじか荘が利用できます。



利用期間●4月1日～11月30日
(冬期間利用不可)
☎0288-93-3420
(国民宿舎かじか荘)



清流で魚釣りを楽しもう!

キャッチアンドリリースなどの規制がされている場合があります。詳しくは足尾町漁業協同組合までお問合せください。

遊漁期間●3月21日～9月19日 ☎0288-93-0777(足尾町漁業協同組合)

relish 味わう

菓子、麺など、足尾自慢の名品の数々に出会えます。



足字銭最中

江戸時代に足尾で铸造された寛永通宝(足字銭)をかたどった最中です。

青柳菓子店 ☎0288-93-2175

安塚菓子店 ☎0288-93-2256

皇海麺

厳選された小麦粉と自然塩のみを用い、永年の経験と独自の手法による手打ち麺の数々。

皇海麺藤谷商店 ☎0288-93-2397

あんこ玉

餡に黒糖、寒天を混ぜてつくった一口大のあんこ玉は、どこか懐かしい和菓子です。

安塚菓子店 ☎0288-93-2256



souvenir 土産

足尾焼

窯ごとに異なる独自の雅趣・風合い・ぬくもりなどを感じさせる素朴さが好評です。

足尾銅山観光売店、各窯元で販売



足尾観光タクシー

足尾町上間藤 13-8 TEL 0288-93-2222